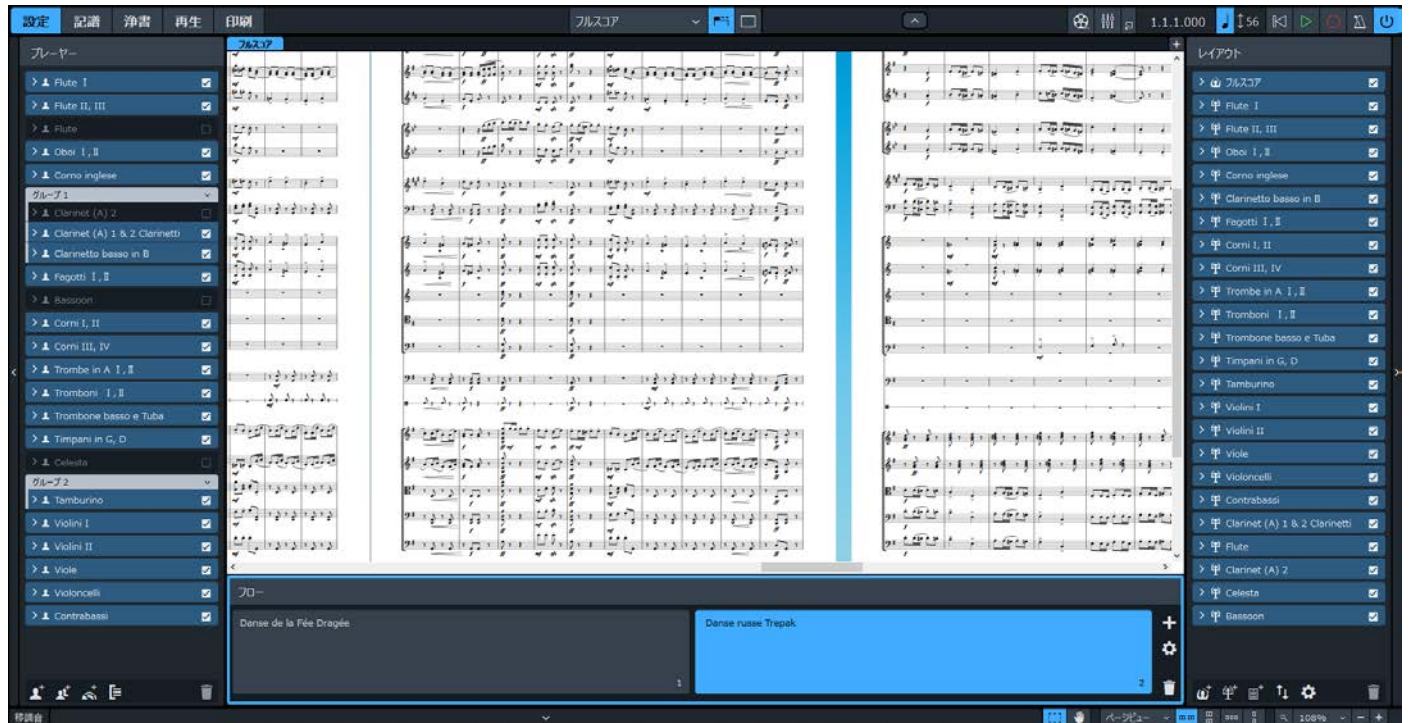


Doricoの基礎

主要概念

- ・ **プロジェクト** - Cubase と同様、Dorico ドキュメントの名前です。
- ・ **モード** - ワークフローを個々のかたまりに分けたものです ([Ctrl]+[1]/[2]/[3]/[4]/[5] でモードを切り替えます)。
- ・ **設定モード** - プレーヤーおよびインストゥルメントの追加、フローの追加、レイアウトの追加、およびレイアウトオプションの変更を実行できます。
- ・ **記譜モード** - 音符の入力と編集、音楽記号の追加、および記譜オプションの変更を実行できます。
- ・ **浄書モード** - ページレイアウト、音符間隔、縦方向の間隔の調整、およびグラフィック表示の調節を実行できます。
- ・ **再生モード** - VST インストゥルメントの割り当て、VST エクスプレッションマップの設定、再生の調節、およびミキシングを実行できます。どのモードからも再生できます。
- ・ **印刷モード** - 印刷ジョブ (冊子印刷、見開きなど) の設定、グラフィックファイルへの書き出し、および印刷を実行できます。
- ・ **ビュー** - ページビュー (デフォルト)、ギャラリービュー (スクロールビュー/パノラマ)、組段ビュー (「ページ」に 1 つの組段を表示、高さの変更が可能なページで表示、元の譜表と変更後の譜表を並列表示するなど)。

設定モード

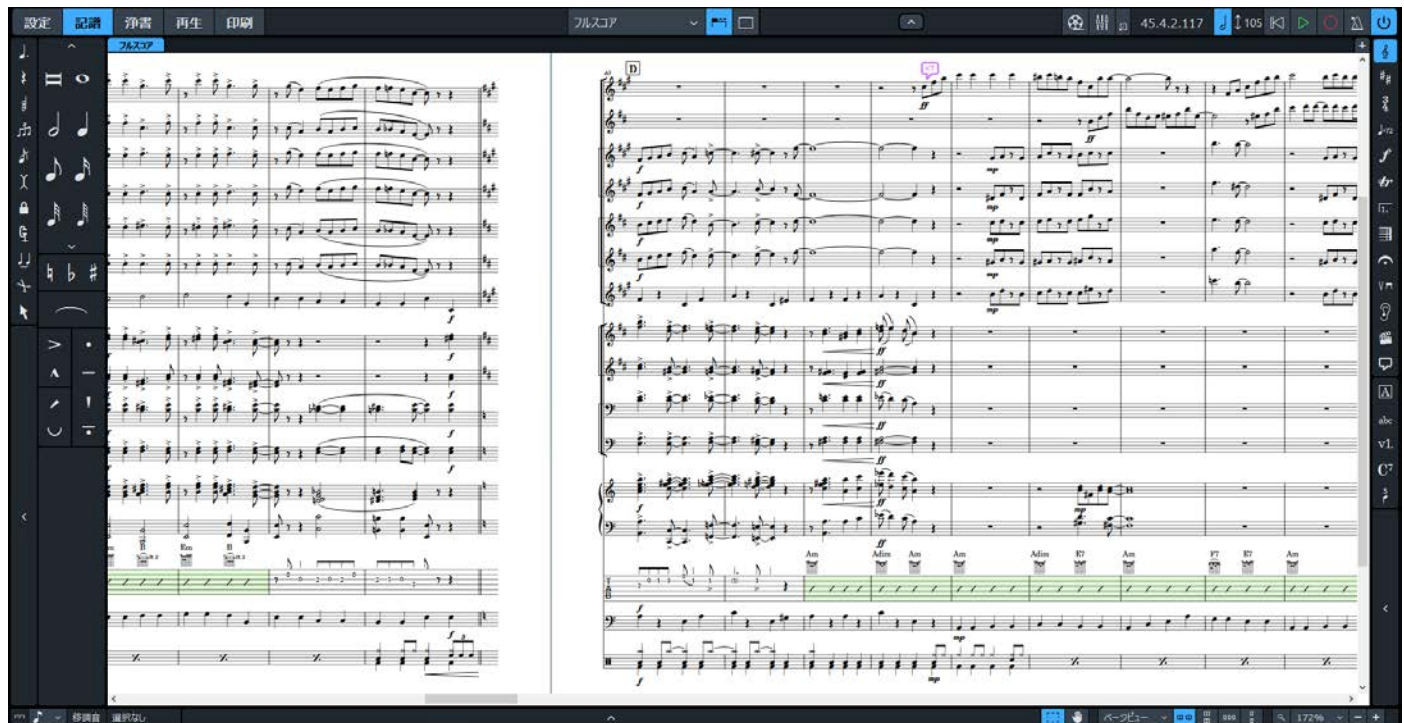


- ・ **プレーヤー** – 1 つ以上のインストゥルメントを演奏する人、または同じインストゥルメントを演奏する人たちのグループのことです。
- ・ **フロー** – 楽譜の集まりのこと (1 楽章、1 歌曲、1 幕、1 曲目、または単なる音楽の断片など) です。

レイアウト – 複数のプレーヤーおよびフローの組み合わせを編集したり、印刷したりできるページ上にどのように配置するかを示したものです。

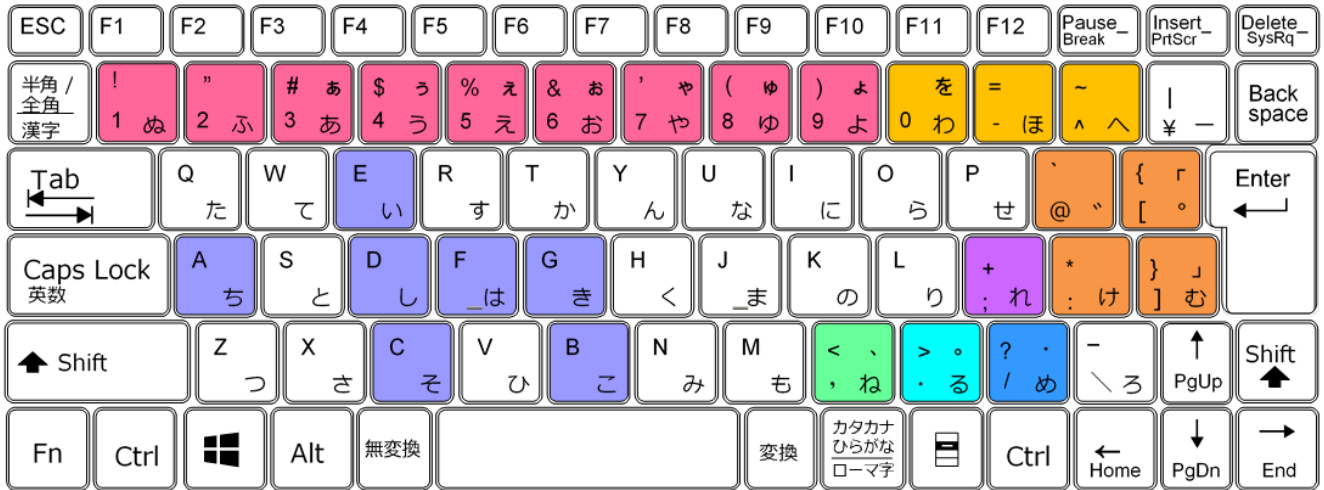
- ・ **フルスコアレイアウト** – プロジェクトに新しく追加されたプレーヤーおよびフローを自動的に引き継ぎます。初期設定では、すべてのプレーヤーおよびフローが表示されます。
- ・ **パートレイアウト** – 新しく追加されたフローを自動的に引き継ぎます。新しく追加されたプレーヤーは追加されません。初期設定では、すべてのフローが表示されますが、プレーヤーは 1 つしか表示されません。
- ・ **カスタムスコアレイアウト** – ユーザーが追加したフローおよびレイアウトのみが含まれます。リハーサルスコア、MD スコアなどに適しています。

記譜モード



- ・ 入力 (キャラットを表示) と編集 (キャラットを非表示) で表示が異なります。
- ・ キャレットとは、音符の挿入ポイントに表示される縦棒のことです。
- ・ 拍子は必要ありません。単にリズムを書き込むだけでよく、小節線または拍子記号はあとから追加します。もちろん、初めに設定してから入力することも可能です。
- ・ インテリジェントなデュレーション編集: 挿入モードをオンした場合、デュレーションを変更すると、変更に応じて声部内のその他の音符すべてが前後に動かされます (真ん中に挿入して音符を分割することもできます)。挿入モードをオフにした場合 (「上書き」モード)、デュレーションを長くすると、デュレーションの変更によって影響を受ける一部の音符のみが上書きされます。
- ・ 連符は「粘着性」です。つまり、明示的に連符を停止しない限り、現在の連符の後に同じユニット/デュレーションの連符が作成されます。また、連符はひとまとまりにすることができます。
- ・ インストゥルメントの変更は自動で行なわれます。同じプレーヤーに複数のインストゥルメントを割り当てたり、ギャラリービューで楽譜を記譜したりするだけで、Dorico はページビューで移行部を自動で作成します。
- ・ 記譜モードでアイテムをドラッグまたは編集すると、そのリズム上の位置およびデュレーションが影響を受けます。ただし、外観に影響はありません。

記譜モードのショートカット



- ・ **Shift+N** または **Return** - ノート入力を開始 (キャレットを表示)
- ・ **Esc** - ノート入力を停止 (キャレットを非表示)
- ・ **1 ~ 9** - デュレーション (1 = 128 分音符、6 = 4 分音符、9 = 倍全音符)
- ・ **A ~ G** - ピッチ (**Shift+Alt+アルファベット**=上へ、**Ctrl+Alt+アルファベット**=下へ)
- ・ **0** = ♮ナチュラル、**-** = ♭フラット、**^** = #シャープ
- ・ **@ 「:」** および **Shift+@ 「:」** - アーティキュレーション
- ・ **/** - 装飾音符の切り替え、**.** - 付点の切り替え、**,** - 休符の切り替え
- ・ **;** - 連符を開始、**Shift+;** - 連符を停止
- ・ **Q** - 和音モードの切り替え
- ・ **I** - 挿入モードの切り替え
- ・ **S** - スラーを開始、**Shift+S** - スラーを停止
- ・ **T** - タイ
- ・ **L** - デュレーションをロック (リズムは変えずにピッチのみを再入力)
- ・ **Shift+V** - 新規声部開始 (上向き/下向き符尾の切り替え)
- ・ **Alt+Shift+V** - スラッシュ音符入力開始 / **V** - 既存声部の切り替え
- ・ **Shift+C** - 音部記号のポップオーバー (「トレブル記号」「F 記号」など)
- ・ **Shift+K** - 調号のポップオーバー (「D」「2s」「c」「5f」など)
- ・ **Shift+M** - 拍子 (拍子記号) のポップオーバー (「3/4」「3+2+2/8」など)
- ・ **Shift+D** - 強弱記号のポップオーバー (「ff」「p<」「molto pp」など)
- ・ **Shift+B** - 小節線のポップオーバー (「+20」「single」「end」など)
- ・ **Shift+L** - 歌詞のポップオーバー (上矢印/下矢印でラインを切り替え、**Shift+上矢印**/下矢印で譜表を上/下に切り替え)

- ・ **Shift+O** - 装飾音とジャズアーティキュレーションのポップオーバー (「tr」 「f all」 「scoop」 など)
- ・ **Shift+T** - テンポのポップオーバー (「Andante」 「q=120」 など)
- ・ **Shift+A** - リハーサルマーク
- ・ **Shift+H** - フェルマータのポップオーバー (「fer」 「short fer」 など)
- ・ **Shift+Q** - コード記号のポップオーバー (「G9」 「Cdim7」 など)
- ・ **Shift+P** - 演奏記号のポップオーバー (「pizz」 「ped」 など)
- ・ **Shift+F** - 指番号のポップオーバー (「3」 「2-1」 など)
- ・ **Shift+U** - キュー音符のポップオーバー (表示させたい楽器名を入力)
- ・ **Shift+I** - 音程追加のポップオーバー (「t 4」 「3,5」 「t M6」 など)
- ・ **Shift+R** - リピートとトレモロのポップオーバー (「3」 「%」 「D.S.」 など)
- ・ **Alt+C / Alt+R** - コメントの作成 / コメントに返答

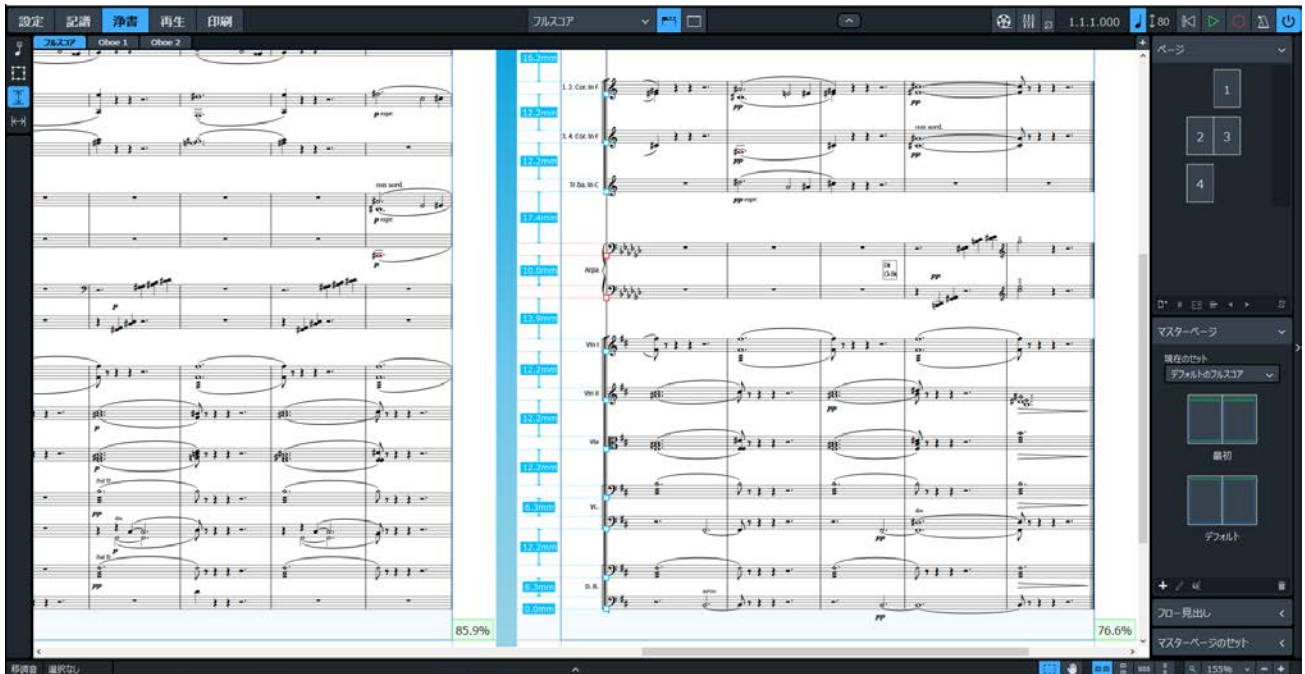
その他の記譜モードのショートカット

- ・ 矢印キーを使用するとナビゲートできます (ワープロと同じです)。[Alt] を押しながら使用すると編集できます。[Alt]+上矢印/下矢印で音符のピッチを 1 音階ずつ移動できます。[Ctrl] + [Alt] を押しながら使用すると、大きな単位 (オクターブ単位) で移動できます。[Shift] + [Alt]を押しながら使用すると、小さな単位 (半音単位) で移動できます。
- ・ 最も重要な音符入力のショートカットは、単一キーのショートカットが用意されています。
- ・ 矢印キーを使用してキャレットを移動できます ([Ctrl] または [Command] を押しながら使用すると、次または前の小節の開始部分に移動します)。
- ・ [Alt]+[-] および [Alt]+[^] では、下または上のノート名を使用して、選択した音符を異名同音に書き換えることができます。

その他の役立つショートカット

- ・ [Z] でズームイン、[X] でズームアウトします。
- ・ スペースキーを押すと、再生を開始または停止します。
- ・ [Ctrl]+[6]/[7]/[8]/[9] を押すと、それぞれツールバー、左パネル、下パネル、右パネルを表示または非表示にします。
- ・ [Ctrl]+[0] を押すと、現在開かれているすべてのパネルを表示/非表示にします。
- ・ [Alt]+[6]/[7]/[8]/[9]/[0] を押すと、それぞれツールバー、左パネル、下パネル、右パネル、メインの編集領域にキーボードフォーカスを移動します。
- ・ [Ctrl]+[T] を押すと新しいタブが追加されます。[Ctrl]+[W] を押すと現在のタブが閉じます。

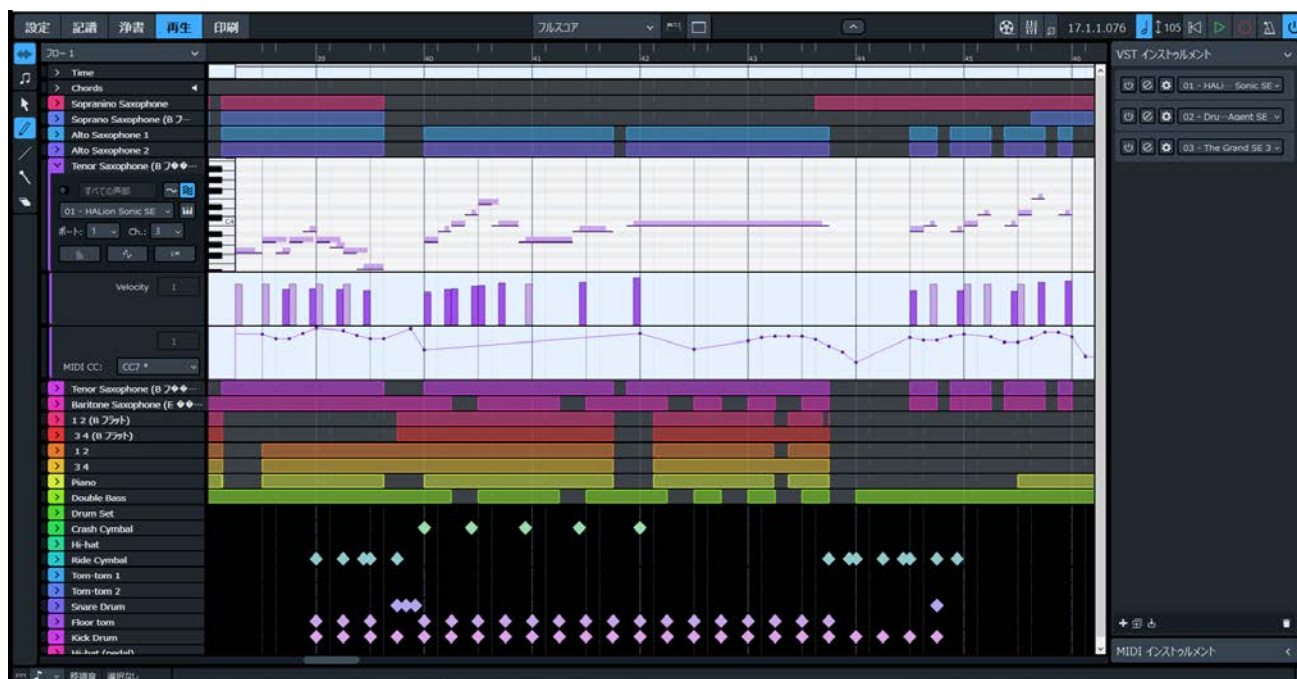
浄書モード



- ・ 浄書モードでアイテムを編集すると、外観のみがその影響を受け、そのリズム上の位置やデュレーションは影響を受けません。編集に適したモードを使用するようにしてください。
- ・ 矢印キーを使用すると、アイテムの個々のハンドルをナビゲートできます。記譜モードの場合は、すべてのアイテムをナビゲートできますが、浄書モードの場合は、各アイテムの選択している部分のみをナビゲートします。
- ・ **[Alt]**+矢印キーを使用すると、選択したハンドルを少しずつ動かすことができます。**[Ctrl]** または **[Command]** を押しながら使用すると、大きな単位で動かすことができます。
- ・ ハンドルをクリックしてドラッグすると、該当するアイテムが移動します。一部のアイテムは他のアイテムの位置に影響しますが、その他のアイテムは影響を与えません。
- ・ 最初に浄書のオプションを優先的に使用し、次にプロパティを使用します。手動での位置調節は最後に行ないます。全体の変更を最初に行なった後に、ローカルの調節を行なうようにします。
- ・ マスターページの楽曲フレームは自動で連結されます。レイアウトの実際のページに楽曲フレームを追加した場合は、手動で連結する必要があります。
- ・ テキストフレームは連結できません。ただし、レイアウト間でコンテンツを共有することはできます。

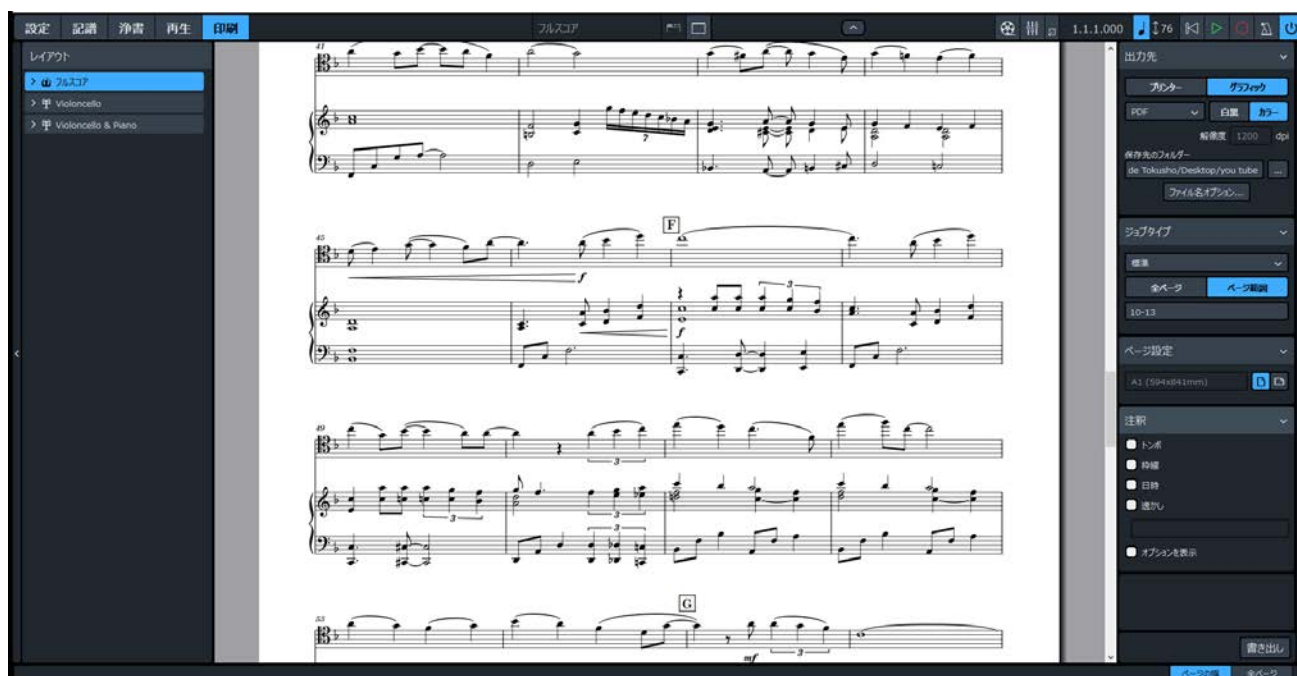
- ・ グラフィックフレームは連結できません。グラフィックフレームをダブルクリックすると、グラフィック (SVG、PNG、JPG、TIFF、など。ただし、PDF または EPS は追加不可) を追加できます。
- ・ フレームは制限付き組段を使用して配置されます。各軸において、フレームの幅は左または右、あるいは左右両方に制限があり、フレームの高さは上または下、あるいは上下両方に制限があります。
- ・ フレームのレイアウトは、ページのサイズや向きの変更に対応しているので、たとえば用紙サイズを A4 から Letter に変更しても、設定しなおす必要はありません。
- ・ フルスコアレイアウトとパートレイアウトには、初期設定で異なるマスターページが設定されます。設定モードのレイアウトオプションでは一度に多数のレイアウトを変更できます。浄書モードでは現在のレイアウトを変更できます。
- ・ マスターページの変更では、前付け、空白ページ、タイトルページなどを追加できます。
- ・ ページ番号の変更では、楽曲ページとは別のページ番号を付けた前文ページを追加できます。
- ・ フレームフィルターを使用すると、レイアウト内の特定のフレームチェーンからプレーヤーまたはフローに含めたり除外したりできます。
- ・ ページの優先を削除すると、レイアウトに対するローカルの変更が取り消されます。
- ・ 譜表のスペーシングでは、譜表同士の間隔を変更することができます。設定したスペーシングを各ページにコピーすることが可能です。
- ・ 音符のスペーシングでは、音符や休符一つ単位での移動が可能です。

再生モード



- 鉛筆ツールで書き加えたイベントは、印刷される記譜データに反映されます。イベントに加えた変更(オンセット、オフセット、デュレーションの設定など)は、プレイバックのみに反映され、印刷される記譜データには反映されません。
- Dorico では、HALion Sonic SE と HSO からコンテンツが自動で読み込まれます。必要に応じて、追加の HSSE プラグインのインスタンスが作成されます。
- F2で「トランスポート」、F3で「ミキサー」、F4で「ビデオ」が表示されます。
- テンポと強弱記号には、特別に計算されたプロファイルがあります。
- VST エクスプレッションマップを使用して、同じインストゥルメント内における演奏技法を変更できます。
- エンドポイント = スイッチ/コントローラー、パッチ、チャンネル/アウトプット、プラグインの組み合わせです。Cubase のトラックとほぼ同じです (VST エクスプレッションマップを使用しなかった場合)。
- 再生テンプレート - プラグインの設定状態、使用している VST エクスプレッションマップの情報、各エンドポイントに合った論理的なインストゥルメントの情報を保存したものです。Cubase のオーケストラテンプレートプロジェクトなどの設定とほぼ同じです。
- 再生を開始または停止する場合、どのモードからでもスペースキーを使用して再生できます (キャラットが非表示の場合に限ります。表示されている場合は、スペースキーを使用するとキャラットの位置が先に進みます)。

印刷モード



- ・ グラフィックへの書き出し及び印刷用の一元化されたユーザーインターフェース。
- ・ 左側のリストでレイアウトごとに印刷する部数を設定できます。
- ・ レイアウトカードを拡張して、ページサイズやページ数などの情報を確認できます。印刷ジョブの種類を選択するのに役立ちます。
- ・ 右側の印刷オプションパネルで印刷/書き出しオプションを設定できます。
- ・ 左側の同じバッチ内で印刷または書き出しの対象となるレイアウトを選択し、「印刷」または「書き出し」をクリックします。
- ・ 両面印刷 - 紙の両側に印刷します。プリンターで両面印刷が可能な場合、Dorico は自動両面印刷に対応します。
- ・ 冊子印刷 - ページを面付けで印刷します。これにより、プリンターから印刷物を取り出し、印刷された紙を真ん中で折るだけで冊子を作成できます。
- ・ 2 ページを 1 ページに集約 - 縦方向のページを横方向の紙の半分に印刷します。これにより、横方向の紙の一面に縦方向のページを 2 ページ分印刷できます。右側に右 (奇数) ページ、左側に左 (偶数) ページという配置は考慮されません。
- ・ 見開き - 「2 ページを 1 ページに集約」と同様に、2 ページを 1 枚の紙に印刷します。こちらは、右ページと左ページ (右 = 右側に配置される奇数ページ、左 = 左側に配置される偶数ページ) の順番が維持されます。
- ・ 白黒 PDF - リッチブラックではなく K (黒) を使用して、本来の白黒 PDF を書き出します。プレス/イメージセッターベースのワークフローの場合に重要です。